

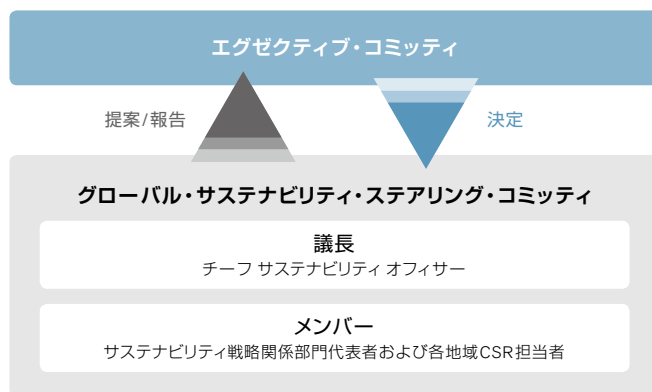
目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

日産のCSRマネジメント

推進体制

8つの戦略の目標設定や進捗確認など社内横断的な管理については、日産の最高意思決定機関であるエグゼクティブ・コミッティが方針や今後の取り組みを決定しています。2016年度は、サステナビリティパフォーマンスのさらなる向上およびサステナビリティに関する課題解決の迅速化を目的に、新しく就任したチーフ サステナビリティ オフィサー (CSO) が議長を務めるグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティを設立しました。8つの戦略課題について、サステナビリティの視点で議論し、必要に応じてエグゼクティブ・コミッティに報告・提案します。グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティは、年2回実施する予定です。

CSRに関する意思決定プロセス



CSRスコアカード

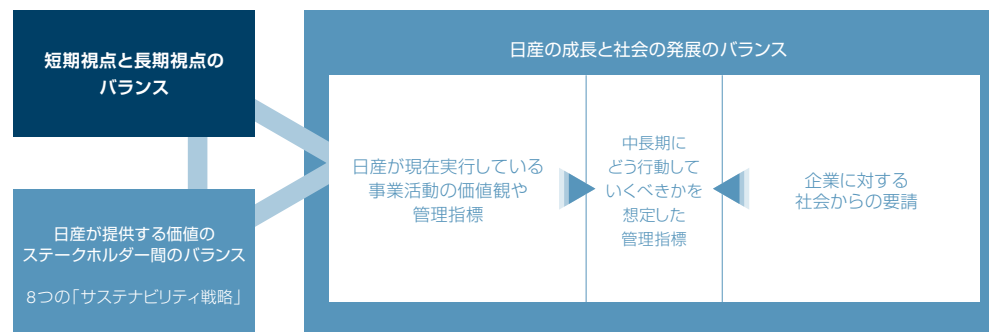
年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成しています。スコアカードでは、縦軸を8つのサステナビリティ戦略とし、日産が提供している価値のステークホルダー間のバランスをチェックします。横軸では、日産の成長と社会の発展のバランスを追求するために、「企業に対する社会からの要請」を考慮しながら決定した「日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標」と「中長期にどう行動していくべきかを想定した管理指標」「今後の課題」を記載しています。横軸と縦軸の両軸を踏まえ、全体として短期視点と長期視点のバランスを追求していきます。CSRスコアカードはサステナビリティレポートで、毎年公表しています。2016年度はスコアカードを見直し、最適化を図りました。



8分野の最新スコアカードを掲載しています

- ▶▶ page_17
- ▶▶ page_49
- ▶▶ page_60
- ▶▶ page_69
- ▶▶ page_77
- ▶▶ page_85
- ▶▶ page_104
- ▶▶ page_109

管理ツール「CSRスコアカード」

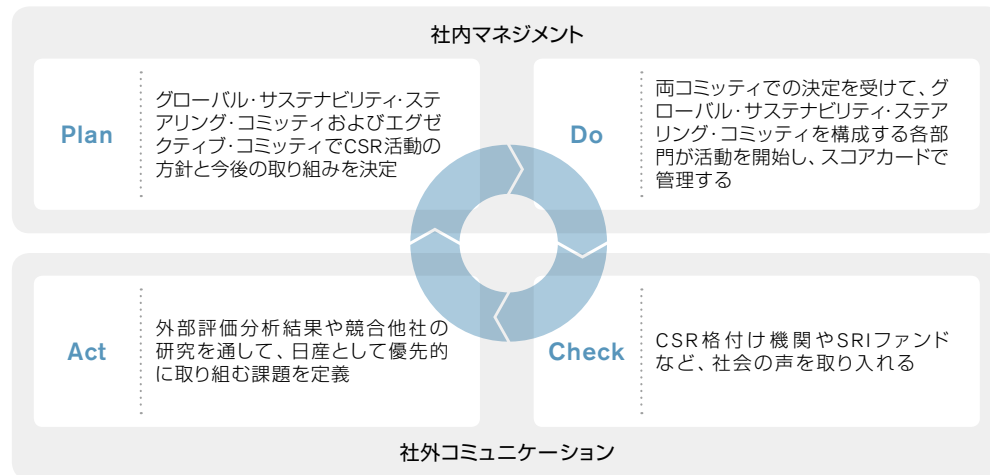


目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

日産のCSRを推進するPDCAサイクル

日産では、グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティおよびエグゼクティブ・コミッティでCSRの方針を決定したうえで、スコアカードによる進捗管理、社会の声の企業活動への取り込み、外部評価の分析に取り組むなどPDCA (Plan-Do-Check-Act:計画、実施、評価、改善) サイクルを通してCSR活動を推進しています。2016年度は社会の声、社外の動向を取り入れるとともに、日産のマテリアリティ評価を検証し、経営戦略への取り込みを進めました。

PDCAサイクル



CSRの社内コミュニケーション

日産では従来、本レポートやウェブサイトを主な媒体として、社外はもとより社内のコミュニケーションにも力を入れてきました。従業員一人ひとりに自分とCSRとの接点があるかを考えてもらい、具体的な行動につなげてもらえるようCSRの情報発信を強化しています。

新人研修および新任課長研修においてもCSRに関するセッションを実施しています。従業員向けポータルサイト(イントラネット)である「WIN」*の中の「ブルーシチズンシップ-日産のCSR-」というサイトでは、自社の活動のほか、CSR全般に関するさまざまな情報を掲載しています。

* WIN: Work force Integration @ Nissan

ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。より多くの声を取り入れるために、社会の声に耳を傾け、オポチュニティとリスクの芽を見いだす活動を行っており、ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設けています。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内にフィードバックする体制を構築しています。

ステークホルダーとの対話における具体的な事例は本レポート内で紹介しています。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

日産を取り巻くステークホルダーとの対話の機会



ステークホルダー	ステークホルダーとの対話の機会
お客さま	問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客さまアンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス
従業員	問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査)
サプライヤー・ディーラー	定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト
株主・投資家	IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、アニュアルレポート、株主通信、メール配信サービス
政府・自治体・ビジネスパートナー	問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、各種協議会、イベント
NGO・NPO	問い合わせ窓口、社会貢献プログラムの運営、寄付、災害被災地支援、イベント、財団を通じた助成
地域社会	各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、社会貢献活動、協議会、交通安全啓蒙活動、財団を通じた助成
将来世代	問い合わせ窓口、社会貢献プログラム、工場見学、寄付講座、イベント、財団を通じた助成、ウェブサイト
メディア	広報問い合わせ窓口、記者会見、広報イベント、プレスリリース、取材対応、メール配信サービス、ウェブサイト

人権の尊重への取り組み

日産はステークホルダーの人権を尊重しながら事業活動を行っています。「国連グローバル・コンパクト」や各国の法律を指針となる原則とし、各種ガイドラインなどを整備しています。また、お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域の住民の方々を含めたステークホルダーとの対話を続けながら、さらに取り組みを強化していきます。

サプライチェーンにおいては、紛争鉱物問題への対応や、日本の反社会的勢力排除条例に基づく調達方針をより明確にするべく、サプライヤーに展開している「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」* を2015年に改定するにあたり、それらの内容を盛り込みました。

▶▶ page_79

▶ 「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」に関する詳細を掲載しています

関連ガイドラインをウェブサイトにて掲載しています

「国連グローバル・コンパクト」に署名

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。国連グローバル・コンパクトは、国連のコフィー・アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。

日産では、国連グローバル・コンパクトの10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、CSRマネジメントを進めています。



人権に関する主な取り組み事例を掲載しています

▶▶ page_87

▶▶ page_114

▶▶ page_82

▶▶ website

国連グローバル・コンパクトに関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください



目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社外からの評価

財務面だけでなく、環境や社会性の観点から企業を評価し、投資対象を選ぶ社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)が注目される中、日産はCSR経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んでいます。日産のCSRへの取り組みは社外からも高い評価を得ています。



ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)

「DJSI」は、米国のダウ・ジョーンズ社とスイスのRobecoSAM社による社会的責任投資株価指標。2016年はDJSI ワールド・インデックス(World Index)の構成銘柄に選定され、DJSI アジアパシフィック・インデックス(Asia Pacific Index)にも引き続き選定されました。



ロベコ・サム・サステナビリティ・イヤーブック2017

スイスのRobecoSAM社が毎年1月に発表する「サステナビリティ・イヤーブック」において、2017年は自動車業界部門で「ブロンズクラス(銅賞)」を受賞しました。



FTSE4Good

FTSE4Goodインデックスシリーズ

英国のフィナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所が共同出資する独立企業のFTSE社が開発。2016年に行われた評価でも引き続き選定されています。



OEKOM コーポレート・レーティング・レポート

企業や国の持続可能性を、環境面および社会面でのパフォーマンスで評価する、ドイツの格付け機関。2015年の評価では、サステナブル投資対象にふさわしい企業として、「プライム」の認定を受けました。



CDP 気候変動プログラム

CDPが実施した、気候変動への取り組みに関する調査「CDP気候変動レポート」(2016年10月公表)において、最高評価のAリストに認定されました。



クラリベイト・アナリティクス Top 100 グローバル・イノベーター 2016

クラリベイト・アナリティクスが選定する「Top 100 グローバル・イノベーター」を4年連続で受賞しました。同賞は、クラリベイト・アナリティクスが保有する特許データをもとに、先進技術や革新技術だけでなく普及につながる技術を分析し、全業種・全世界を通じて最も革新的な企業・機関に与えられます。



モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)

日本のSRI指標である、モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)の2017年構成銘柄に選定されています。



東京証券取引所「なでしこ銘柄」

経済産業省と東京証券取引所が共同で選定している「なでしこ銘柄」(女性活躍推進に優れた上場企業)に5年連続で選定されました。

日本経済新聞社「企業の環境経営度調査」

日本経済新聞社が実施した第20回「企業の環境経営度調査」の企業ランキング(2017年1月発表)において、製造業で2位、自動車メーカーでは1位にランキングされました。



株式会社日本政策投資銀行「DBJ環境格付」

株式会社日本政策投資銀行が実施する「DBJ環境格付」において、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付を取得するとともに、格付評価が傑出して高いモデル企業のみが該当する特別表彰を受賞しました。

▶ website

ロベコ・サム・サステナビリティ・イヤーブック2017に関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください

▶ website

FTSE4Goodインデックスシリーズに関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください

▶ page_95

ダイバーシティに関する受賞情報を掲載しています